

神戸市外国語大学 学術情報リポジトリ

Nordic Cooperation in International Peace Operations

メタデータ	言語: jpn 出版者: 公開日: 2018-04-20 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: 五月女, 律子, SAOTOME, Ritsuko メールアドレス: 所属:
URL	https://kobe-cufs.repo.nii.ac.jp/records/2402

This work is licensed under a Creative Commons Attribution-NonCommercial-ShareAlike 3.0 International License.



国際平和活動における北欧協力

五月女 律子

神戸外大論叢 第68巻 第2号 (2018年) 抜刷

神戸市外国語大学 研究会

国際平和活動における北欧協力

五月女 律子

はじめに

北欧諸国（デンマーク、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン、アイスランド）の間における国際的な平和維持の活動での協力は、古くは1849年に遡る。デンマークとプロシアの間の紛争拡大予防のため、1849～50年にノルウェーとスウェーデンが合同で3,800人の兵士を派遣した。また、1920年代から30年代にかけては、国際連盟のもとでデンマーク、ノルウェー、スウェーデンが、国際的な軍事監視や平和維持の活動に参加していた（Jakobsen 2006a: 11-12）。第二次世界大戦後に国際連合（国連）で開始された平和維持活動（*peacekeeping operations*: PKO）において、北欧諸国は協力体制の構築を進めたが、協力の萌芽はその前から存在していたといえる。そして冷戦終結後、北欧諸国の間では、国際平和活動（*international peace operations*）¹に関わる既存の協力制度の改組や組織の新設が実施され、軍事分野での北欧協力（*Nordic Cooperation*）²の継続・強化が試みられている。

このように北欧諸国は国際平和活動への参加に長い歴史を持っており、特に第二次世界大戦後のミッションへの参加に関する各国の事例研究は、数多く存在する。しかし、北欧諸国間の国際平和活動における協力を通史的に考察した研究はあまり多くない。冷戦期における国連 PKO での協力については、NORDSAMFN（*Nordic Committee for Military UN Matters*）が出版した協力実態に関する書籍（1986; 1993）や、邦文では香西（1991）、渡部（1991）の研究が

¹ 平和維持や平和構築のための国際的活動は、国際機構によって名称が異なる。例えば北欧諸国が関わっている活動の中でも、国連では平和維持活動（PKO）、NATO（北大西洋条約機構）では平和支援活動（*peace support operations*: PSO）、EU（欧州連合）では危機管理（*crisis management*）という名称が使用されることが多い。したがって、本稿では便宜上これらを含む概念として、国際平和活動という用語を使用する。

² 北欧協力一般については、五月女（2004）を参照されたい。

ある。冷戦後も含めた北欧諸国間の協力については、Jakobsen (2006a; 2006b; 2007) や Forsberg (2013) の研究などで分析されている。邦文では、岩井 (1995)、五月女 (2004; 2015b) などでも取り上げている。しかし、既存の学術研究は、国際平和活動での北欧協力のみに焦点を絞っているわけではない。国連 PKO における多国間での協力や、NATO (北大西洋条約機構) や EU (欧州連合) と北欧諸国との関係、軍事分野での北欧諸国間の協力の一部として、国際平和活動での北欧協力が考察されている。

本稿では、国際平和活動における北欧協力を分析対象を絞り、冷戦期における協力の進展、冷戦後の協力体制の再編・強化を考察し、北欧協力による国際平和活動 (政策・実施) への貢献についても分析を行うことを目指す。国際平和活動には軍事作戦から文民活動までさまざまな分野があるが、ここでは各国の軍が関わる活動に焦点をあてて検討する。第 1 節で冷戦期の国連 PKO における協力を考察し、第 2 節で冷戦後の協力体制の再編・強化について分析し、第 3 節で冷戦後の再編を促した要因として NATO および EU との関係変化について検討する。最後に、国際平和活動における北欧諸国間の協力をみられる継続と変化について明らかにし、今後の課題について考えたい。

1. 冷戦期の国連 PKO における北欧諸国間の協力

1.1 国連 PKO への積極的要員派遣

北欧諸国間で冷戦期に国連 PKO における協力が進んだ背景には、自国軍を持たないアイスランド以外の北欧 4 カ国が、国連 PKO の黎明期から積極的に要員を派遣したことがある。国連への貢献は、北欧各国の対外政策において重視されていた。国連 PKO は、初代国連事務総長のノルウェー出身のリー (Trygve Halvdan Lie) のもとで、活動の基礎が築かれた。北欧諸国は 1948 年に第 1 次中東戦争休戦への国際連合休戦監視機構 (UNTSO)、翌 49 年に第 1 次インド・パキスタン戦争休戦への軍事監視団 (UNMOGIP) に参加し、1950 年から朝鮮戦争に対して送られた国連軍には医療支援を行った³。

1953 年に第 2 代国連事務総長にスウェーデン出身のハマーショルド (Dag Hammarskjöld) が就任し、国連 PKO の任務が兵力引き離しや治安維持にも拡大すると、1956 年に第 2 次中東戦争後に第 1 次国際連合緊急軍 (UNEF I) が組織され、北欧諸国は軍事要員を派遣した。1964 年に開始された国際連合キプロス平和維持軍 (UNFICYP) にも、ノルウェーを除く北欧諸国は参加した。1978 年から開始された国際連合レバノン暫定軍 (UNIFIL) には、デンマークを除く

³ デンマーク、ノルウェー、スウェーデンの 3 カ国が参加した。

3カ国が多くのを要員を派遣した。1986年1月時点で、北欧各国が要員を派遣していた国連PKOと人数は、以下の表1の通りである。各国の人口規模から考えると、多くの人員を派遣していたといえる。

1946年から88年の冷戦期に国連で創設され、活動を開始したPKOは15あり、そのうち北欧諸国のいずれかが要員を派遣したPKOは、表2の通り13に上る。冷戦期においては、国連PKOに参加した兵士の約25%が北欧4カ国から派遣されていた(Eknes 1994: 62)。1948～96年の間にスウェーデンは26の国連PKOに要員を派遣し⁴、カナダの33に次ぐ世界2位であり、ノルウェーは25で3位、デンマークとフィンランドは19で7位であった(Ishizuka 2016: 68)。

表1 北欧各国の国連PKOへの派遣要員数(1986年1月時点)

活動名	デンマーク	フィンランド	ノルウェー	スウェーデン
国際連合休戦監視機構 (UNTSO)	12	22	16	36
国際連合インド・パキスタン 軍事監視団 (UNMOGIP)	6	4	5	8
国際連合キプロス平和維持軍 (UNFICYP)	393	10	-	378
国際連合兵力引き離し監視軍 (UNDOF)	-	411	-	-
国際連合レバノン暫定軍 (UNIFIL)	-	501	861	145
合計	411	948	882	567

* 文民警察官を除く。

出所：NORDSAMFN(1986: 8, Figure 2)を簡略化。

⁴ スウェーデンは国際連合西ニューギニア保安隊(UNSF)に参加していないが、UNSFとしての活動開始前には軍事監視員を派遣している(The United Nations 1996: 770)。

表2 1948～88年の北欧各国の国連PKO参加状況（参加は○）

活動名	期間	デンマーク	フィンランド	ノルウェー	スウェーデン
国際連合休戦監視機構 (UNTSO)	1948～	○	○	○	○
国際連合インド・パキスタン軍事監視団 (UNMOGIP)	1949～	○	○	○	○
第1次国際連合緊急軍 (UNEF I)	1956～67	○	○	○	○
国際連合レバノン監視団 (UNOGIL)	1958	○	○	○	○
国際連合コンゴ活動 (ONUC)	1960～64	○	-	○	○
国際連合西ニューギニア保安隊 (UNSF)	1962～63	-	-	-	-
国際連合イエメン監視団 (UNYOM)	1963～64	○	-	○	○
国際連合キプロス平和維持軍 (UNFICYP)	1964～	○	○	-	○
ドミニカ国際連合事務総長代表使節団 (DOMREP)	1965～66	-	-	-	-
国際連合インド・パキスタン監視団 (UNIPOM)	1965～66	○	○	○	○
第2次国際連合緊急軍 (UNEF II)	1973～79	-	○	-	○
国際連合兵力引き離し監視軍 (UNDOF)	1974～	○	○	-	○
国際連合レバノン暫定軍 (UNIFIL)	1978～	-	○	○	○
国際連合アフガニスタン・パキスタン仲介ミッション (UNGOMAP)	1988～90	○	○	-	○
国際連合イラン・イラク軍事監視団 (UNIIMOG)	1988～91	○	○	○	○
合計		11	11	9	13

出所： Jakobsen (2006a: 15) および The United Nations (1996) より筆者作成。

1.2 北欧国連待機軍の設置

第二次世界大戦後に多くの要員を国連PKOに派遣する中で、北欧諸国は合
 同で国連待機軍を創設する方向へと進んだ。まず1960年にデンマーク、ノルウ

エー、スウェーデンの3カ国によって協議され、1963年にはフィンランドも参加し、国連待機軍が合同で設置されることとなった。翌年に参加予定国内で国内法上の措置をとるとともに、国内議会の承認を得ることが求められ、1964年に北欧国連待機軍（Nordic U.N. Stand-by Forces）の制度が4カ国によって創設された⁵。19世紀半ばから平和維持活動において、北欧諸国間でアドホックに協力がなされることはあったが、1960年代に初めて恒常的な協力体制が形成された。

北欧国連待機軍は、4カ国合同、2カ国以上、または単独で各国が国連の平和維持軍および監視団に参加することが目的とされた。デンマークから950人、フィンランドから725人、ノルウェーから1,325人、スウェーデンから1,600人が提供される予定となり、4カ国の合計4,600人で構成されるものであった（香西 1991: 429）。1986年時点ではデンマークから950人、フィンランドから2,000人、ノルウェーから1,330人、スウェーデンから2,000人という編成であった（NORDSAMFN 1986: 13, 14, 16, 17）。北欧各国において、国連待機軍への参加は志願制という点は共通であったが、契約期間などは国によって異なった。

1968年には、国連PKOの活動における北欧諸国間の協力を促進するため、北欧4カ国でNORDSAMFNが創設された。この組織は各国の軍事関係当局で構成され、国連PKOの経験を活かすことによる問題解決が目的とされた。具体的な活動内容は輸送、運営、訓練プログラム、セミナーの調整などであった（NORDSAMFN 1986: 22-25）。

北欧4カ国で訓練のコースが分担され、デンマークは憲兵隊（UN Military Police Course: UNMILPOC）、フィンランドは軍事監視員（UN Military Observer Course: UNMOC）、ノルウェーは兵站（UN Logistics Officers Course: UNLOC）および移動管制員（UN Movement Control Course: UNMOVCC）、スウェーデンは司令部幕僚（UN Staff Officers Course: UNSOC）の合同訓練コースを担当した。他に北欧国連セミナー（Nordic UN Seminar）も開催国を交替しながら実施された。訓練の頻度は、年2回がUNMOC、年1回がUNMILPOCとUNSOC、2年に1回がUNLOCとUNMOVCCであり、北欧国連セミナーは3年に1回開催された（NORDSAMFN 1986: 25）。これらの訓練には北欧諸国以外の国が参加することもあり、排他的な制度ではなかった。

1993年まで実際に北欧国連待機軍として合同部隊を編成して国連PKOに派遣することはなかったが、訓練等での協力は促進された。また、中東での国連

⁵ 北欧国連待機軍の創設過程については、五月女（2004: 109-115）を参照されたい。アイスランドは自国軍を持たないため、待機軍には参加しなかった。

PKO では、現地における活動でも協力が実施された。訓練での協力のみでなく、実際の活動でも協力が実現し、北欧諸国間の協力は国連 PKO の一つのモデルとされるようになった。国連 PKO での北欧協力の推進は、北欧各国において激しい政治的論争を引き起こすものではなかったため、協力が実現したといえる (Järvenpää 2014: 137, 139)。

2. 冷戦後の協力体制の再編・強化

2.1 国連および NATO の国際平和活動への参加

冷戦終結後も北欧諸国間で国連 PKO における協力は続き、各国が分担して合同訓練コースの責任を負う形が継続された。1993 年時点での各国の担当コースは、デンマークが憲兵隊、フィンランドが軍事監視員、ノルウェーが兵站、スウェーデンが司令部幕僚および文民警察官 (UN Civilian Police Course: UNPOC) であった。訓練の頻度は、年 4 回が UNMOC、年 2 回が UNSOC、年 1 回が UNMILPOC、UNLOC、UNPOC であり (NORDSAMFN 1993: 11)、1986 年時点と比較して合同訓練コースの開催頻度は高まったといえる。これらの訓練コースの中にはアフリカ諸国に開かれたものもあり (Mosgaard 1998; Ulriksen 2007: 557)、アフリカでの国際平和活動における北欧協力の一部となった。

冷戦期は訓練・教育での協力体制が構築されたが、冷戦後は国連 PKO への部隊派遣における協力も開始された。国連事務総長の軍事アドバイザーからのスウェーデン政府に対する非公式の要請を受け、1992 年 12 月に開催された北欧諸国の外相による会議において、合同部隊での派兵が決定された (Archer 1994: 370)。そして、各国の外務省と国防省の代表が、NORDSAMFN において旧ユーゴスラビア・マケドニアでの国連 PKO への参加を計画した。フィンランド、ノルウェー、スウェーデンの 3 カ国の兵士を中心とした、合同指揮による北欧部隊 (Nordic battalion: NORDBATT⁶) の創設に合意し、短期間の間に訓練、資材調達、調整を実施し、担当の任務や地域を決定した (Björkdahl 1999: 60-61, 67-68)。

1993 年 1 月から北欧諸国の合同部隊である NORDBATT 1 が、旧ユーゴスラビア・マケドニアで活動していた国際連合保護軍 (UNPROFOR) に派遣された。これは北欧諸国による初めての合同部隊の創設および派遣であった。従来の北欧諸国による国連 PKO への参加とは異なり、4 カ国による個別の努力というよりも、「北欧」としての貢献であったといえる (Archer 1994: 375)。1994 年 3 月

⁶ 略称として NORDBATT または NORDBAT が使用されており、文献や資料によって表記が異なるが、本稿では NORDBATT に統一して表記する。

時点での部隊の構成は、デンマークから4人⁷、フィンランドから330人、ノルウェーから228人、スウェーデンから256人であった。1993年10月からは、旧ユーゴスラビア領域のボスニアに展開していたUNPROFORに、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンの合同部隊がNORDBATT 2として派遣された。1994年3月時点での内訳は、デンマークが121人、ノルウェーが1人⁸、スウェーデンが822人であった（Bethlehem and Weller 1997: 691）。

その他にも、NATO主導のミッションに北欧諸国以外の国を含めた合同部隊を派遣するなど、国際平和活動への参加における北欧諸国間の協力が進んだ⁹。1995～2004年にNATO主導のもとボスニア・ヘルツェゴビナで展開された平和執行部隊（IFOR）と平和安定化部隊（SFOR）に対し、1995～99年に北欧・ポーランド旅団（Nordic-Polish Brigade in IFOR and SFOR: NORDPOLBDE）、2000～02年にはSFORに北欧・ポーランド戦闘グループ（Nordic-Polish Battle Group in SFOR: NPBG）を派遣した（Jakobsen 2007: 467）。そして、2000年に北欧諸国は合同PKO部隊として北欧旅団（Nordic Brigade）を創設するなど（Forsberg 2013: 1167）、国際平和活動での協力を進めた。

冷戦後は、北欧各国の安全保障防衛政策において国際平和活動の重要性が増す中で¹⁰、訓練・教育での協力のみならず、現地活動での協力・協調も組織化して実施されるようになった。北欧諸国は言語、文化、政治的価値（民主主義、法の支配、人権、男女平等の重視など）での類似性が高い上、冷戦期における北欧諸国間の協力実施によって、国際平和活動においても「北欧」というアイデンティティが醸成されたといえる。北欧諸国の共通点として、軍事力に頼るだけでなく、文民活動やジェンダーの視点を重視する包括的安全保障（comprehensive security）に基づいた戦略文化を持つことが指摘されている（Forsberg 2013: 1175）。訓練・教育や現地活動での協力成果の積み重ねによって、単なる効率化・合理化を超えて、国際平和活動において共通の規範、理念、価値を追求・実践する意義が、北欧諸国間で見出されたと考えられる。

⁷ デンマークは既にUNPROFORに多くの要員を派遣していたため、NORDBATT 1への派兵人数は限られた（NORDSAMFN 1993: 180）。

⁸ ノルウェーは主に医療支援とヘリコプターの派遣を行った。

⁹ 詳細については、Jakobsen (2006a: 209-229; 2007) および五月女 (2015b: 32-33) を参照されたい。

¹⁰ 北欧各国の安全保障防衛政策における国際平和活動の位置づけの変容については、五月女 (2014; 2015a; 2016a; 2016b; 2017) を参照されたい。

2.2 北欧国連待機軍から NORDAC, NORDCAPS, NORDSUP の創設へ

冷戦終結後は国際平和活動が活発化する一方で、ヨーロッパ諸国で防衛費の削減が進められた。北欧諸国間でも費用対効果や経費節減の面から、軍事分野での協力の促進が目指されることとなった¹¹。1994年11月に、北欧諸国間で防衛に関わる資材・装備の開発、調達、維持管理での協力を進めるため、NORDAC (Nordic Armaments Cooperation) が創設された。大きなプロジェクトでは成功しなかったが協力が進んだものもあり¹²、創設後の15年間で約1億ユーロが節約されたとの報告がある (NORDEFECO 2017a)。

また、1997年4月に軍事的平和支援活動に関わる北欧諸国間の協力を促進するため、北欧諸国の国防大臣の合意によって NORDCAPS (Nordic Coordinated Arrangement for Military Peace Support) が創設された。1960年代以降、NORDSAMFN の下で実績を残してきた国際平和活動に関わる訓練・教育での協力は、NORDCAPS に引き継がれることとなった。NORDCAPS の目的は、既存の軍事的平和支援活動における北欧協力を強化し、国連以外による活動に対象を広げることとされた (NORDCAPS 2007)。常設の軍や指揮命令構造を創設するのではなく、事案ごとに対応・決定を行う協力形態が前提とされた (NORDCAPS 2010)。

NORDCAPS の創設は、国連以外の主体による国際平和活動の重要性が増し、それらの活動に北欧諸国が参加し始めたことが影響を与えたと指摘されている (Forsberg 2013: 1167)。NORDCAPS 設立までの歴史の説明においても、国際平和活動の拡大の結果として、北欧諸国間の協力の再構築が促進されたことが示されている (NORDCAPS 2010)。NORDSAMFN は1960年代の設立時には国連PKOを対象としていたため、冷戦終結後の国際平和活動に適応するには不十分であったといえる。そのため、さまざまな国際組織が主導する軍事要素を含んだ国際平和活動において、北欧諸国間の協力が可能となる新たな制度が必要になったのである。

NORDCAPS は国際平和活動に関する訓練だけではなく、治安部門改革 (Security Sector Reform: SSR) と軍の能力開発 (capacity building) も協力の対象とし、実際にバルカン地域、ウクライナ、アフリカ東部での活動において北欧諸国間の協力が実行された (Dahl 2014: 4; Järvenpää 2014: 139)。NATO が行っ

¹¹ NATO や EU においても、多国間で防衛での協調・分担を進め、自国のみでは困難な軍備強化の実現や、軍備強化に伴う費用負担の軽減が目指されている。NATO では Smart Defence、EU では Pooling and Sharing といわれ、NATO では2011年以降、EU では2010年以降に強調されている。

¹² 詳細は Dahl (2014: 6-7), Forsberg (2013: 1168), Järvenpää (2014: 148) を参照。

ている e-ラーニングの 2017 年のオンラインコースカタログには、NORDCAPS で使用されていた歩兵大隊の国際平和活動に関するマニュアル (NORDCAPS PSO Tactical Manual) に基づいたコースがあり (NATO 2017: 14)、現在でも NORDCAPS の下での多国間の協力の成果が活かされているといえる。

1997 年から NORDCAPS は存在していたが、2002 年 4 月にアイスランドを除いた北欧 4 カ国の国防大臣の間で NORDCAPS に関する覚書 (Memorandum of Understanding: MOU) が署名され¹³、そのなかに兵力のプールに関する記述が盛り込まれた。2002~06 年の間は、北欧諸国が国際平和活動に関わる時に使用する公式な制度として NORDCAPS、SHIRBRIG (国連活動用多国籍高度即応待機旅団)¹⁴、バルト三国を中心とした BALTBATT (Baltic Battalion)¹⁵ および BALTRON (Baltic Naval Squadron) が併存している状態となった。NORDCAPS において兵力のプールの規模は倍増したが、北欧諸国による合同部隊の基礎として実際に使用されることはなかった。NORDCAPS での兵力のプールは 2006 年 5 月に廃止され、2008 年 1 月から後述する EU の下での北欧戦闘グループ (Nordic Battlegroup: NBG) に置き換えられた (Jakobsen 2007: 460-461)。

国際平和活動での北欧諸国間の協力が活発化する中で、2005 年 10 月にスウェーデンが防衛分野での北欧協力を提案し、2007 年 8 月 31 日付のノルウェーとスウェーデンの全国紙に、両国による安全保障での協力提案が掲載された¹⁶。ノルウェーとスウェーデンの協力計画が報告書として提示されると、他の北欧諸国も高い関心を示し (Britz 2012: 223; Westberg 2015: 105)、2008 年からフィンランドが会合に参加するようになった。同年 6 月 18 日には、フィンランド、ノルウェー、スウェーデン各国の主要新聞 3 紙に 3 カ国の代表者が共同で、防衛分野での北欧協力の促進に関する意見を掲載した。デンマークとアイスランドも協力に参加することとなり、同年 11 月に NORDSUP (Nordic Supportive Defence Structures) を創設する協定に北欧 5 カ国が署名した。NORDSUP の設立には、NATO および EU と北欧諸国間の緊密な協力を補完する目的が明示されており (Jakobsen et al. 2012: 4)、北欧諸国間での協力だけでなく、国際平和活動を含めた NATO および EU との協力も視野に入れられていた。

¹³ アイスランドは 2003 年 9 月に MOU に署名し、NORDCAPS に参加した (NORDCAPS 2007)。

¹⁴ 活動期間は 2000 年 1 月から 2009 年 6 月であった。SHIRBRIG の設立の経緯および詳細については、Koops and Varwick (2008)、一政 (2002)、山下 (2007) を参照されたい。

¹⁵ 1994 年に創設された。

¹⁶ 両国の軍の最高司令官 (Chief of Defence) が連名で掲載した。ノルウェーとスウェーデンの間の協力提案の推移については、Westberg (2015: 101-105)、五月女 (2016b: 90) を参照されたい。

2.3 NORDEFECO の創設

2009 年から開始された現在の協力枠組みである NORDEFECO (The Nordic Defence Cooperation) 設立の契機となったのは、上述のノルウェーとスウェーデンとの間での協力に関する協議であった。しかし、直接的に制度の創設に結びついたのは、元ノルウェー外相のストルテンベルグ (Thorvald Stoltenberg) が北欧諸国の外相に提出した報告書であった。この報告書は、外交・安全保障分野での更なる北欧諸国間の協力を提案する内容であり、国際平和活動のみを対象にしたものではなかった。しかし、報告書の中で提案された北欧平和安定化部隊 (Nordic Stabilisation Task Force)、災害対応ユニット (Disaster response unit)、水陸両用ユニット (Amphibious unit) の設立の提案では、北欧諸国間の協力が国連、NATO、EU、アフリカ連合 (AU)、欧州安全保障協力機構 (OSCE) が主導する国際的危機管理活動に貢献しうることが記載されていたため (Stoltenberg 2009: 8, 24, 32)、国際平和活動での協力の深化・拡大への機運が生まれた¹⁷。

2009 年 11 月に北欧 5 カ国によって調印された覚書 (MOU) によって、NORDAC、NORDCAPS、NORDSUP は翌 12 月に NORDEFECO に統合・再編された。NORDEFECO の主目的は、参加国の防衛を強化し、共通の相互強化作用を探求し、有効な共通解決策を促進することである (NORDEFECO 2017a)。しかし、NORDEFECO の年次報告書や今後の協力の方針には、北欧協力が国連、NATO、EU などの国際機構による平和や安全保障に関する国際的活動に貢献することが、常に目的として記載されている。

2.4 NORDEFECO での協力

NORDEFECO における北欧諸国間の協力は 5 つの分野に分けられており、そのうち国際平和活動に関係する分野は、人的資源と教育 (Human Resources and Education: COPA HR&E) および実際の活動での協力 (Operations: COPA OPS) である¹⁸。COPA HR&E に設置されているワーキング・グループ (NORDEFECO Working Group Peace Support Operation Education & Training: WG PSO E&T) に、国際平和活動の教育・訓練を行っている北欧各国の組織が参加し、共通の教育・

¹⁷ 報告書が提案された背景や内容の分析については、Archer (2010: 43-74) が詳しい。

¹⁸ 他の 3 分野は 2012 年まで Strategic Development (COPA SD), Capabilities (COPA CAPA), Training & Exercises (COPA TR&EX) であった (Andersen 2013: 5)。2013 年から COPA SD に代わって Armaments (COPA ARMA) になり、2017 年現在まで変更はない (NORDEFECO 2014: 8; 2017c)。

訓練コースを提供する形で協力が行われている¹⁹。各国に担当分野が割り振られており、デンマークが憲兵および民軍協力 (CIMIC)、フィンランドが国連ミッションでの軍事専門家 (軍事監視員など) および通信、ノルウェーが兵站と国連の活動、スウェーデンがジェンダー、公共業務、司令部幕僚となっている (NODEFIC 2017: 4)。北欧国連待機軍での分担が引き継がれている面もあり、1960年代からの協力実績を継承しているといえる。

国際平和活動での協力に関する教育・訓練コース (NORDEFO Peace Support Operations Cooperation Course: NORDEFKO PSOCC) は、フィンランドにある FINCENT (The Finnish Defence Forces International Centre) で実施されている。2017年からは、文民および警察も受講者として迎え入れることとなり (NORDEFKO 2017b)、国連、NATO、EU、AU が主導する国際平和活動において、戦術レベルで協調、協力、連絡を行う人材の養成を目的としている (FINCENT 2017)。

NORDEFKO PSOCC 以外にも、2017年現在で国連における協力を対象とした21の教育・訓練コースの実施が、NORDEFKO の枠組みの中で予定されている。また、国際平和活動に関係する多くの分野でも、協力が進められている。例えば2017年現在で、民軍協力、武装解除・動員解除・社会復帰 (DDR)、ジェンダー、危機管理、兵站、憲兵などの分野において、教育・訓練コースやセミナーの実施が予定されている²⁰ (NORDEFKO 2017d)。これらのコースおよびセミナーは、北欧諸国以外の国からの参加者を受け入れているものもあり、排他的な制度ではない。

COPA OPS の目的は実際のミッションでの協力であり、継続中の軍事的国際平和活動を対象としている。NORDEFKO の創設以降2017年現在まで、アフガニスタンでの活動に焦点が当てられている。現地の活動における兵站や輸送などの協力で、成果を上げている (Järvenpää 2014: 144-145; NORDEFKO 2017c)。

既存の研究では、NORDEFKO の成果として訓練・教育、物資、兵站、経済性、共同の協議・計画・決定などが挙げられており (Westberg 2015: 91, 109)、上述の教育・訓練コースやセミナーなどの実施および現地での活動においての

¹⁹ 教育・訓練を行っている各国の組織は、FINCENT、NODEFIC (Norwegian Defence International Centre)、SWEDINT (Swedish Armed Forces International Centre) であり、デンマークは軍で実施されている。

²⁰ 総計で45のコースおよびセミナーが予定されているが、2017年6月7日時点で3つのコースは中止となっている。2016年は41のコースおよびセミナーの開催が予定されていた (NORDEFKO 2015)。

協力が実を結んでいるといえる。

3. 冷戦後の協力再編・強化の促進要因

3.1 NATOによる平和支援活動（PSO）の開始

冷戦後に北欧諸国間の国際平和活動での協力が再編された要因には、さまざまなものがある。国によって程度の相違はあるものの、国際環境の変化を受けて、軍の中心任務が自国の領土防衛から国際平和活動に移行したことが、背景の一つとしてある。国際平和活動を開始した国連以外の国際機構（NATO や EU）との協力関係の強化に伴い、軍の活動がますます国際化し、その状況に北欧各国も適応する必要が生じた。また、冷戦の終焉により防衛予算の削減が多く、多くの国で進められ、軍事に関わる活動や装備にかかる費用の削減や効率化が求められることとなった。

冷戦後の NATO および EU の変化が北欧各国の安全保障防衛政策に与えた影響については、多くの研究が存在している。しかし、国際平和活動における北欧協力と NATO および EU との関係を分析した既存研究は多くない²¹。ここでは、NATO と EU の変化が北欧諸国間での国際平和活動における協力に及ぼした影響について、考察することを試みたい。

冷戦終結後から 1990 年代後半までは、国際平和活動での北欧諸国間の協力に対して、ヨーロッパの安全保障環境の変化や NATO の役割の変容が大きな影響を与えた。北欧諸国は 1990 年代中頃から、NATO による平和支援活動（peace support operations: PSO）や多国籍軍による軍事作戦に要員の派遣を開始した。国連以外の国際機構や国際的合意によるミッションに参加するため、北欧各国は国連の活動への派遣を念頭に置いた待機軍制度の再編を行った。その結果、1964 年に創設された北欧国連待機軍は解消することとなったが、北欧諸国間での国際平和活動における協力が消滅したわけではなく、協力対象となる国際機構が拡大する方向に進んだ。

デンマーク、ノルウェー、アイスランドは 1949 年の NATO 創設時から加盟国であるが、軍事的非同盟政策を採っているフィンランドとスウェーデンは、現在も NATO に加盟していない。しかし、両国は 1994 年に NATO の「平和のためのパートナーシップ（Partnership for Peace: PfP）」に参加し、NATO と協力を進めることとなった。そして、実際に NATO 主導の平和支援活動において北欧諸国間での協力が実行された。コソボ治安維持部隊（KFOR）では、フィン

²¹ EU の CFSP の変化と北欧諸国の国際的危機管理活動における協力の関係については、五月女 (2015b) がある。

ランド、ノルウェー、スウェーデンが同じ旅団に所属した。

また、アフガニスタンでの国際治安支援部隊 (ISAF) の活動で、フィンランド、ノルウェー、スウェーデンによる協力が実現した。特にフィンランドとスウェーデンはアフガニスタン北部に共同で駐屯し、マザリシャリフ (Mazar-e-Sharif) において地方復興チーム (Provincial Reconstruction Team: PRT) を創設した。2013 年にはフィンランド、ノルウェー、スウェーデン、ラトビアが、北欧バルト委譲支援ユニット (Nordic-Baltic Transition Support Unit: NBTSU) を合同で創設した。他方で、デンマークはアフガニスタン南部でイギリスとともに活動した²²。2011 年には、NATO 主導によるリビアに対する軍事作戦において、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンは戦闘機を派遣した²³。デンマークとノルウェーは空爆を実行し、スウェーデンは飛行禁止区域の監視活動を行った。この活動の際にも、デンマーク、ノルウェー、スウェーデンは協力している (Dahl 2014: 4)。

NATO 主導による軍事作戦や国際平和活動において、北欧諸国の足並みが常に揃っているわけではなく、NATO の平和支援活動への参加形態や関与の度合いはその時々で北欧各国で異なる。しかし、国連以外の国際機構が主導する国際平和活動への参加機会の増加は、国際平和活動における北欧協力の制度や組織を改組・再編・強化する契機になったといえる。特に 1990 年代においては、NATO が国際平和活動で大きな役割を果たすようになり、北欧諸国は NATO の活動に要員を派遣するようになった。このような状況を背景として、国連以外の活動に対象を拡大した NORDCAPS が 1997 年に創設され、北欧諸国間の協調や協力がより一層進められた。そして、実際のミッションでの協力も実行された (Dahl 2014: 4)。

NORDEFECO においては、国際平和活動のみを対象としたものではないが、NATO や PFP 参加国との協力を対象とした教育・訓練コースが設置されている²⁴。また、それらの国以外からも参加者を受け入れるコースもあり、北欧諸国以外を排除しない形での北欧協力が継続しているといえる。

3.2 EU による国際的危機管理活動の開始

2000 年代以降は、EU における国際平和活動での協力の進展も、北欧諸国に影響を与えている。北欧諸国には欧州石炭鉄鋼共同体 (ECSC) からの原加盟

²² デンマークの国際平和活動の特徴については、五月女 (2015a) を参照されたい。

²³ フィンランドはこの NATO の軍事行動に参加しなかった。

²⁴ 2016 年は NATO 関連で 5 つのコースが設置されていた (NORDEFECO 2015)。

国は存在せず、1973年にデンマークが欧州共同体（EC）に加盟したが、冷戦期は他の4カ国が加盟することはなかった。冷戦終結後、1995年にフィンランドとスウェーデンがEUに加盟し、ノルウェーとアイスランドは非加盟国ながらもEUとさまざまな分野で協力を進めていくようになった。他方で、デンマークはマーストリヒト条約に関する1回目の国民投票において反対が過半数となったため、共同防衛を含む4分野での適用除外（opt-out）をEUに認めさせ、2回目の国民投票で賛成を得た。そのため、デンマークはEUが行う軍事活動に参加しないこととなった。

2000年代に入ると、EUの共通外交・安全保障政策（CFSP）および欧州安全保障防衛政策（ESDP）のもとで、EUとしての国際的危機管理（international crisis management）の活動が実施されるようになった。EUにおけるCFSP/ESDPの発展も北欧協力を再編させる一つの要素となったといえる²⁵。例えば、フィンランドやスウェーデンの政府が公表する防衛の指針を示す文書では、国際平和活動におけるEUとの協力の重要性が明記されている。2003年から開始されたEUとして最初の軍事的危機管理活動であるEUFOR Concordia（旧ユーゴスラビアのマケドニアに展開）には、デンマークを除く北欧4カ国が参加した（吉武2007: 109）。

EUのCFSPの具体的実施方策として2004年に決定されたEU戦闘グループ（EU Battlegroup）の創設に対応し、スウェーデンが枠組み国となってフィンランド²⁶、エストニア、アイルランドおよびEU非加盟国のノルウェーとともに、2007年に北欧戦闘グループ（NBG）を構成した²⁷。しかし、EUによる国際的危機管理活動に対して、常に北欧諸国が同じミッションに参加するわけではない（表3参照）。

北欧諸国の中でEU加盟国である3カ国のうち、スウェーデンが最も積極的にEU主導の国際平和活動に参加し、次いでフィンランドも要員を派遣しているが、デンマークは適用除外により軍事活動に参加していない。EU非加盟国のノルウェーは積極的に関わる場合もあり、北欧諸国とEUの関係は複雑な状況である。他にも、EUが各地で実施している現地の治安部隊の訓練を行うミッション（The European Union Training Mission: EUTM）にも、北欧諸国は要員を派遣している。

²⁵ CFSPおよびESDPの発展については、五月女（2007）を参照されたい。

²⁶ フィンランドはNBGだけでなく、ドイツを中心とした戦闘グループにも参加した。デンマークはEUの軍事活動からの適用除外により、どの戦闘グループにも参加しなかった。

²⁷ 2015年にラトビアとリトアニアもNBGに加わった。

FINCENTにおいて実施されている教育・訓練コースでは、先述のNORDEFCO PSOCCのみでなく、危機管理活動を対象としたコース（NORDEFCO Integrated Crisis Management Course: ICM）も、EU主導の国際平和活動での協力を対象としている（FINCENT 2016: 25）。また、ノルウェーのNODEFICにおいてNORDEFCOの枠組みの中で実施されている、軍の配備と戦時増援に関するコース（International Movement Planning Course: INTMOV P）も、国連、NATOとともにEUでの活動を踏まえている（NODEFIC 2017: 10）。EUによる国際的危機管理活動への参加も、北欧諸国間の協力の再編・強化を進める要因となったといえる。

表3 EUの軍事作戦・活動への北欧各国の参加状況（参加は○）

活動名	期間・場所	デンマーク	フィンランド	ノルウェー	スウェーデン
EUFOR Concordia	2003 マケドニア	-	○	○	○
Operation Artemis	2003 コンゴ民主共和国	-	-	-	○
EUFOR Althea	2004～ ボスニア・ヘルツェゴビナ	-	○	○	○
EUFOR DR Congo	2006 コンゴ民主共和国	-	○	-	○
EUFOR Tchad/RCA	2008～09 チャド、中央アフリカ共和国	-	○	-	○
EUNAVFOR Somalia	2008～ ソマリア沖	-	○	○	○
EUNAVFOR MED	2015～ 地中海	-	○	-	○

*2017年8月現在までに要員の派遣実績がある作戦・活動。

*EUFOR Concordiaにはアイスランドも参加。

*EUNAVFORは海軍を中心とした作戦・活動である。

出所：EUNAVFOR MED(2017), EUNAVFOR Somalia(2017), SIPRI(2008: 133), The Finnish Defence Forces(2016), The Swedish Armed Forces(2017), Wivel and Marcussen(2015: 210), 吉武(2007: 109)より筆者作成。

おわりに

北欧諸国間の国際平和活動における協力の制度化は1960年代から始まり、冷戦期は国連PKOへの参加を前提とした訓練・教育などで成果を積み重ねた。

冷戦後に北欧諸国は国連 PKO のみならず、NATO や EU が主導する国際平和活動にも要員を派遣し、国連以外の活動にも対応できるよう、制度の再構築が進められた。また、冷戦の終結により軍事分野で効率化、国際化、専門化などが求められたことも、国際平和活動での北欧協力の推進に繋がった。

1990 年代半ばから北欧諸国間の協力は、制度の新設・再編という形で活性化している。協力の形態は柔軟であり、北欧 5 カ国が全てのプロジェクトやプログラムに参加しなければならないわけではなく、参加が前提とされているわけでもない²⁸。同時に、北欧諸国間の協力は冷戦期から排他的なものではなく、北欧諸国のいくつかの国が北欧以外の国も含めて合同で活動することもある。冷戦後は東欧諸国との協力も進み、特にバルト三国は現在では NORDEFSCO の年次会合に招待されているなど (Dahl 2014: 4, 6)、関係が深化している。また、2000 年代末から軍事分野のみでなく、文民分野においても国際平和活動における北欧協力が進められているが、協力体制の構築は途上である²⁹。

軍事分野での北欧協力において、全ての北欧諸国が同程度の関心を持ち、同一の優先順位を付けているわけではない。自国軍を持たないアイスランドは、軍事分野での協力への参加は限られ、対照的にフィンランドとスウェーデンは、ほとんどのプロジェクトやプログラムで中核を担っている。NORDEFSCO による協力に最も楽観的なのがフィンランドとスウェーデン、あまり積極的でないのがデンマーク、その間がノルウェーである (Dahl 2014: 11)。冷戦期よりも北欧協力への対応に差が見られる要因として、北欧各国の間に NATO および EU との関係の相違が存在していることが挙げられる。しかし、冷戦期の国連 PKO の下で培われた国際平和活動への貢献という共通の価値や政策が北欧諸国に存在し、協力体制は制度を改変しながら継続・発展している。2000 年代に北欧諸国間の国際平和活動での協力は、特にフィンランド、ノルウェー、スウェーデンの間で顕著になっている。

国際平和活動における北欧協力は 1960 年代から実務の面で実績を残し、それが軍事分野での協力の必要性を高める一つの要因となり、より協力を進める原動力となってきたといえる。そして、装備・資材の調達における協力や、合同での人材育成・訓練が実施されると、ミッションでの実際の活動において活動の効率が高まるとともに、改善点が浮かび上がる結果となる。それが再び、国際平和活動における協力体制の構築・改革・再編に繋がるという循環を生ん

²⁸ 各国の利害や貢献の度合いから、参加するプロジェクトやプログラムを自由に選択することが可能である (Dahl 2014: 6)。

²⁹ 詳細は Bailes and Sandó (2014) および Jakobsen (2009) を参照されたい。

でいるといえよう。

また、これまでに国連、NATO、EU が主導するミッションのもとで行われた実務的協力の背景には、北欧諸国に共通する規範、理念、価値、文化が基礎としてあり、国際平和活動に関わる政治的価値や戦略文化にも共通性が存在していたといえる。北欧諸国間の協力は単に実務的側面にとどまらず、北欧諸国の人々に「北欧アイデンティティ (Nordic identity)」としての存在意義を見出されていると考えられる。今後も国際平和活動を効果的に実施し、国際組織への影響力を高めることを目的として、実務的な協力を促進しつつ、北欧諸国間での協力の意義を見出す努力が続けられることになるであろう。

近年では、NORDEFECO を中心とした北欧諸国の防衛分野での協力も目指されている³⁰。また、ロシアの軍事活動の活発化により、北欧各国の防衛予算は増額傾向にあり、自国の領土防衛の重要性が再認識されている。軍事分野での北欧諸国間の協力は、特にフィンランド、ノルウェー、スウェーデンの間で重視されつつあり、国際平和活動における実務面での協力の実績も積み重ねられている。国際平和活動のみでなく、安全保障防衛政策においても北欧協力が注目される中で、冷戦期から国際平和活動に積極的に参加してきた北欧諸国の協力関係がどのように継続または変化していくのか、今後も注目する必要があるであろう。

引用・参考文献

- Andersen, Tommy Jelling (ed.) supported by the military level of NORDEFECO (2013) *NORDEFECO Annual Report 2012*, The Danish chairmanship of the Nordic Military Coordination Committee.
- Andersson, Andreas (2007) “The Nordic Peace Support Operations Record, 1991-99”, *International Peacekeeping* 14(4): 476-492.
- Archer, Clive (1994) “Conflict Prevention in Europe: The Case of the Nordic States and Macedonia”, *Cooperation and Conflict* 29(4): 367-386.
- _____ (2010) “The Stoltenberg Report and Nordic Security: Big Idea, Small Steps”, in Nanna Hvidt and Hans Mouritzen (eds.), *Danish Foreign Policy Yearbook 2010*, Danish Institute for International Studies.
- Archer, Clive and Pertti Joenniemi (2016) “Nordic Security and Defence Cooperation:

³⁰ Archer and Joenniemi (2016), Järvenpää (2014), Saxi (2011) が詳しい。

- Northern Policies in a European Perspective”, in Johan Strang (ed.), *Nordic Cooperation: A European Region in Transition*, Routledge.
- Bailes, Alyson J. K. and Carolina Sandö (2014) *Nordic Cooperation on Civil Security: The ‘Haga’ Process 2009-2014*, Report no.FOI-R-3944-SE, Swedish Defence Research Agency (FOI) and Centre for Small State Studies, University of Iceland.
- Bethlehem, Daniel and Marc Weller (eds.) (1997) *The ‘Yugoslav’ Crisis in International Law: General Issues, Part I*, Cambridge University Press.
- Björkdahl, Annika (1999) “Conflict Prevention from a Nordic Perspective: Putting Prevention into Practice”, *International Peacekeeping* 6(3): 54-72.
- Britz, Malena (2012) “Ett oväntat uppsving för nordiskt säkerhetspolitiskt samarbete”, i Fredrik Doeser m fl (red.), *Norden mellan stormakter och fredsförbund: Nordiskt säkerhetspolitik samarbete i det gamla och nya Europa*, Santérus.
- Dahl, Ann-Sofie (2014) “NORDEFECO and NATO: ‘Smart Defence’ in the North?”, Research Paper No. 101, NATO Defense College.
- Danish Ministry of Defence (2017) *NORDEFECO Annual Report 2016*, The Danish chairmanship of NORDEFECO.
- Eknes, Åge (1994) “Norden og FNs fredsbevarende operasjoner”, i Åge Eknes (red.) , *Norden i FN: Status och framtidsutsikter*, Nordiska rådet.
- EUNAVFOR MED (Operation Sophia) (2017) “Mission”, <https://eeas.europa.eu/sites/eeas/files/eunavfor_med_-_mission_21_august_2017_en.pdf>, accessed August 26, 2017.
- EUNAVFOR Somalia (Operation Atalanta) (2017) “Mission”, <<http://eunavfor.eu/mission/>>, accessed August 26, 2017.
- European Union External Action (2016) *Common Security and Defence Policy of the European Union: Missions and Operations Annual Report 2016*, <https://eeas.europa.eu/sites/eeas/files/e_csdp_annual_report1.pdf>, accessed August 25, 2017.
- FINCENT (2016) *Course Catalogue 2016*, <<http://puolustusvoimat.fi/documents/1951249/2094941/FINCENT-Course-Catalogue-20162202.pdf/1ec7dfc3-fb03-45f7-a114-d8d855be6078>>, accessed August 25, 2017.
- _____ (2017) “NORDEFECO Peace Support Operations Cooperation Course (Tactical level)”, <<http://puolustusvoimat.fi/en/web/fincen/psocc>>, accessed August 16, 2017.
- Forsberg, Tuomas (2013) “The Rise of Nordic Defence Cooperation: A Return to

- Regionalism?”, *International Affairs* 89(5): 1161-1181.
- Heimvik, Trond and Ellef Iversen and Norwegian Ministry of Defence (2015) *NORDEFECO Annual Report 2014*, The Norwegian chairmanship of NORDEFECO.
- Heldt, Birger (2008) “Trends from 1948-2005: How to View the Relation between the United Nations and Non-UN Entities”, in Don Daniel (ed.), *Prospects for Peace Operations: Institutional and National Dimensions*, Georgetown University Press.
- Ishizuka, Katsumi (2016) “History of Europeans’ Participation in UN Peace Operations: Should the European States Go back to UN Peacekeeping?”, *The Journal of Kyoto University* 14: 63-86.
- Jakobsen, Peter Viggo (2006a) *Nordic Approaches to Peace Operations: A New Model in the Making?* Routledge.
- _____ (2006b) “The Nordic Peacekeeping Model: Rise, Fall, Resurgence?”, *International Peacekeeping* 13(3): 381-395.
- _____ (2007) “Still Punching Above Their Weight? Nordic Cooperation in Peace Operations after the Cold War”, *International Peacekeeping* 14(4): 458-475.
- _____ (2009) “Small States, Big Influence: The Overlooked Nordic Influence on the Civilian ESDP”, *Journal of Common Market Studies* 47(1): 81-102.
- Jakobsen, Svein Iver, Jan Mattsson, Michael Jarl and Swedish Armed Forces Headquarters (eds.) (2012) *NORDEFECO Annual Report 2011*, The Swedish chairmanship of the Nordic Military Coordination Committee.
- Järvenpää, Pauli (2014) “Nordic Defence Cooperation: NORDEFECO and Beyond”, in Ann-Sofie Dahl and Pauli Järvenpää (eds.), *Northern Security and Global Politics: Nordic-Baltic Strategic Influence in a Post-unipolar World*, Routledge.
- Koops, Joakim and Johannes Varwick (2008) *Ten Years of SHIRBRIG: Lessons Learned, Development Prospects and Strategic Opportunities for Germany*, GPPi Research Paper Series No.11, 2008, The Global Public Policy Institute, <http://www.gppi.net/fileadmin/user_upload/media/pub/2008/Koops_Varwick_2008_Ten_Years.pdf>, accessed April 5, 2017.
- Ministry of Defence Sweden (2016) *NORDEFECO Annual Report 2015*, The Swedish chairmanship of NORDEFECO.
- Mosgaard, Kurt (1998) “Training Co-ordination: The NACC Clearing House Concept”, in Mark Malan (ed.), *Resolute Partners: Building Peacekeeping Capacity in Southern Africa*, monograph No.21, February 1998, Institute of Security Studies.
- NATO (2017) *NATO Joint Advanced Distributed Learning: Online Course Catalogue*, <<https://jadl.act.nato.int/CourseCatalog.pdf>>, accessed August 16, 2017.

- NODEFIC (2017) *NORDEFECO Course Catalogue 2017*, <<https://forsvaret.no/hogskolene/en/ForsvaretDocuments/NODEFIC%20course%20catalogue%202017.pdf>>, accessed August 25, 2017.
- NORDCAPS (2007) “Welcome to NORDCAPS”, <<http://www.nordcaps.org/>>, accessed November 24, 2009.
- _____ (2010) “NORDCAPS Purpose, Structure and History”, <<http://www.nordcaps.org/?id=125>>, accessed October 27, 2012.
- NORDEFECO (2014) *NORDEFECO Annual Report 2013*, The Nordic Military Coordination Committee.
- _____ (2015) *Courses 2016*, <[http://www.nordefco.org/Files/NORDEFECO%20Courses%202016%20\(1\).pdf](http://www.nordefco.org/Files/NORDEFECO%20Courses%202016%20(1).pdf)>, updated September 21, 2015, accessed August 25, 2017.
- _____ (2017a) “The Basics about NORDEFECO”, <<http://www.nordefco.org/The-basics-about-NORDEFECO>>, accessed August 16, 2017.
- _____ (2017b) “NORDEFECO Peace Support Operations Cooperation Course started at _____ FINCENT”, <<http://www.nordefco.org/NORDEFECO-Peace-Support-Operations-Cooperation-Course-started-at-FINCENT>>, accessed August 16, 2017.
- _____ (2017c) “The Cooperation Areas”, <<http://www.nordefco.org/The-Cooperation-Areas>>, accessed August 16, 2017.
- _____ (2017d) *NORDEFECO Course Calendar 2017*, updated June 7, 2017 <<http://www.nordefco.org/2017>>, accessed August 25, 2017.
- NORDSAMFN (1986) *Nordic UN Stand-by Forces*. 3rd ed., Norsteds Tryckeri.
- _____ (1993) *Nordic UN Stand-by Forces*. 4th ed., Tryckericentralen Ab.
- Saxi, Håkon Lunde (2011) *Nordic Defence Cooperation after the Cold War*, Oslo Files on Defence and Security, Norwegian Institute for Defence Studies.
- _____ (2014) “So Similar, Yet so Different: Explaining Divergence in Nordic Defence Politics”, in Robin Allers et al. (eds.), *Common or Divided Security? German and Norwegian Perspectives on Euro-Atlantic Security*, Peter Lang GmbH.
- SIPRI (Stockholm International Peace Research Institute) (ed.) (2008) *SIPRI Yearbook 2008: Armaments, Disarmament and International Security*, Oxford University Press.
- Stoltenberg, Thorvald (2009) *Nordic Cooperation on Foreign and Security Policy*,

- Proposals presented to the extraordinary meeting of Nordic foreign ministers in Oslo on 9 February 2009.
- The Finnish Defence Forces (2016) “Finland to Leave Operation Atalanta”, <http://puolustusvoimat.fi/en/web/kansainvalinen-kriisinhallinta/artikkeli/-/asset_publisher/1951215/suomi-poistuu-operaatio-atalantasta>, December 2, 2016, accessed August 26, 2017.
- The Swedish Armed Forces (2017) “Completed Missions”, <<http://www.forsvarsmakten.se/en/archived-pages/about/our-mission-in-sweden-and-abroad/completed-operations/>>, accessed August 26, 2017.
- The United Nations (1996) *The Blue Helmets: A Review of United Nations Peace-keeping*, 3rd ed., The United Nations Department of Public Information.
- Ulriksen, Ståle (2007) “Deployments for Development? Nordic Peacekeeping Efforts in Africa”, *International Peacekeeping* 14(4): 553-568.
- Westberg, Jacob (2015) “Det nordiska försvarssamarbetets drivkrafter och utvecklings möjligheter”, i Kjell Engelbrecht m fl (red.), *Svensk säkerhetspolitik i Europa och världen*, Andra upplagan, Norstedts juridik.
- Wivel, Anders and Martin Marcussen (2015) “In the Shadow of History? Explaining the (lack of) Europeanisation of Nordic Security and Defence Policies”, in Caroline Howard Grøm et al. (eds.), *The Nordic Countries and the European Union: Still the Other European Community?* Routledge.
- 一政祐行 (2002) 「国連 PKO 待機制度の現状とその展望 —待機軍即応旅団 (SHIRBRIG)」『外務省調査月報』2002/No.3: 79-117.
- 岩井文男 (1995) 「各国の PKO への取り組み」神余隆博編『国際平和協力入門』有斐閣.
- 香西茂 (1991) 『国連の平和維持活動』有斐閣.
- 五月女律子 (2004) 『北欧協力の展開』木鐸社.
- _____ (2007) 「EU の共通外交・安全保障の展開」坂井一成編『ヨーロッパ統合の国際関係論』(第2版) 芦書房.
- _____ (2014) 「冷戦終結後のフィンランドの安全保障防衛政策 —PKO・国際的危機管理活動を中心に」『北九州市立大学法政論集』第42巻第1号: 1-26.
- _____ (2015a) 「デンマークの国際平和活動 —国連・NATO・EU」*EUIJ-Kyushu Review*, Issues 3 and 4, 2014.
- _____ (2015b) 「EU の共通外交・安全保障政策の発展と北欧協力 —国際的

危機管理活動を中心に」『北九州市立大学法政論集』第 43 巻第 1・2 合併号：29-47.

_____ (2016a) 「スウェーデンの安全保障防衛政策 —安全保障・軍事の国際化の視点から」『北九州市立大学国際論集』第 14 号：1-17.

_____ (2016b) 「ノルウェーの安全保障防衛政策と国際平和活動」『神戸外大論叢』第 66 巻第 3 号：81-104.

_____ (2017) 「スウェーデンの国連平和維持活動」『神戸外大論叢』第 67 巻第 2 号：159-178.

山下光 (2007) 「国連平和維持活動と『多国籍軍』 —SHIRBRIG の経験とその意味合い」『防衛研究所紀要』第 10 巻第 2 号：1-26.

吉武信彦 (2007) 「欧州統合の中の北欧諸国」田中俊郎、小久保康之、鶴岡路人編『EU の国際政治 —域内政治秩序と対外関係の動態』慶應義塾大学出版会.

渡部茂己 (1991) 「国連平和維持軍と国連『待機軍』制度 —北欧国連待機軍の事例を中心として」『外交時報』No. 1277: 50-63.

謝辞：本研究は JSPS 科研費 JP25380200 の助成を受けたものです。記して感謝申し上げます。また、有益なコメントをくださった査読者に深く御礼申し上げます。

Keywords: 北欧協力 平和維持活動 (PKO) 平和支援活動 (PSO)
NORDEFKO

Nordic Cooperation in International Peace Operations

SAOTOME Ritsuko

Offprint from *The Kobe City University Journal*

Vol.68 No.2 (2018)